

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第85号

平成31年3月12日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

第7回楠正行シンポジウムに100名を超える参加者

加島副住職、143名の過去帳再現プロジェクト発表

木子准教授、正行と重ねる岳飛の話に感動

● 林副市長、東市長メッセージ紹介 ●

四條畷楠正行の会は、3月9日（土）午後2時より、四條畷市立教育文化センター2階ホールに約100名を集めて、第7回楠正行シンポジウムを開催しました。

この楠正行シンポジウムは、過去6回、四條畷市・四條畷市教育委員会等が開催して来ましたが、第7回より、四條畷楠正行の会が事業の承継を受け、開催したものです。

この日、四條畷市林副市長、四條畷市議会渡辺議長、四條畷市教育委員会森田教育長、楠公ツーリズム推進協議会会長・観心寺永島住職等、多数の来賓を迎え、ホールを埋め尽くす来場者で熱気漂う中、大阪電気通信大学3回生の小向千尋さんの司会でシンポジウムは始まりました。

冒頭、あいさつ頂いた林副市長から東市長のメッセージをご披露いただきました。東市長から『地域と行政の協働による「市民中止のまちづくり」を進めている中、本市が中心となって開催してきたこの事業を承継していただき、開催に至ったことに心から感謝します』とのメッセージを頂きました。

● 内侍クイーンに認定証と記念品贈呈 ●

続いて、昨年12月8日の市民かるた大会で優秀な成績を

収め、正行カルタの名人位「正行キング」（男子児童）、「内侍クイーン」（女子児童）に決定した5名の皆さんに認定証と記念品の授与を行いました。



当日出席したのは、内侍クイーンの山本明実さん、山本和実さん（いずれも四條北小学校）、邑本美心さん（四條畷小学校）の3人で、扇谷会長から認定証を渡すと、嬉しそうな笑顔で受け取っていただきました。今後、各地で開催予定のかるた大会等に参加していただきます。

また、この日欠席されました正行キングの宮川

椰豊君、宮川那要君（いずれもくすのき小学校）には後日、認定証等お届けします。

● 木子准教授が基調講演 ●

第1部の基調講演は、

「くすのきまさつらカルタの制作意義について」と題し、大阪電気通信大学総合情報学部の木子准教授から、四條畷楠正行の会との出会い、社会プロジェクト実習授業の立ち上げ、武将楠正行を後世に伝える学び、そしてカルタの完成までについて、詳しくお話いただきました。



国家に尽くすため軍に身を捧げ、連戦連勝をもたらした軍才と仁愛精神、絶頂期での悲劇的な最期を遂げた中国・宋時代の英雄、岳飞と楠正行の生き方は非常によく似ていると紹介。

6 グループに分かれてカルタ制作に取り組んだ学生の取り組みを紹介したうえで、大阪電気通信大学学内とくすのき小学校でのカルタ大会の様子を動画で流し、制作の意義を、①歴史の伝承、②地域への貢献、③学生の成長の3点に集約され、講演を終えられました。



● 加島副住職と扇谷の対談 ●

第2部の対談は、楠正行とともに四條畷の合戦を戦った143名の武将の過去帳再現プロジェクトを立ち上げるとともに、「楠公父子物語」NHK大河ドラマ誘致に向けて設立された楠公ツーリズム推進協議会副会長として活躍される吉野山如意輪寺加島裕和副住職と、四條畷楠正行の会の扇谷昭によって行いました。

加島副住職からは、①楠正行と如意輪寺の関わり、中興の祖、鉄牛上人と楠氏の関係、②戦後70年を経て、後醍醐天皇御忌復活事業、③楠正行は四條畷の戦いを前に如意輪寺本堂に143名の武将の名を記した過去帳を奉納したが、今、その過去帳が残っていないので、再現プロジェクトの立ち上げ、④今、何故、NHK大河ドラマ誘致なのか、の大きく4点にわたって報告がありました。



そして、加島副住職は、しっかりと楠正行の魅力を発信し、若い世代の皆さんが好きな武将として、「楠正行」と答えてくれるように広く認知が進むようにしたい、と訴えました。

また、扇谷からは、①四條畷ゆかりの人物、楠正行を、次代を担う若い世代に継承するため大阪電気通信大学との連携で絵本作りやかるたづくりを進めていること、②楠正行は生前正四位下まで上がったこと、その顕彰碑が小楠公墓所境内に立っていること、③扇谷が「楠正行」を作詞した事、小林幸子が昭和40年湊川神社の武者行列の小楠公役で登場し、「小楠公」の歌を3000人の聴衆の前で披露した事、④楠公ツーリズム推進協議会の一員として、楠木検定等に協力してきたこと、等報告しました。

また扇谷は、くすのきまさつらカルタが四條畷市田原図書館のみならず、河内長野市立図書館でも展示されるなど、

楠氏ゆかりの地で大いに広がりを見せていることを紹介し、参加者へ今後の支援・協力を訴えました。

また、この日のサプライズで、扇谷が作詞した「楠正行」を壇上で熱唱するという一幕もありましたが、会場の皆さんの反応や如何に、でしょうか。

● 正四位下拓本掛

軸ほか展示 ●

最後、真木副代表が閉会の挨拶を申し上げ、第7回楠正行シンポジウムは盛会のうちに終了しました。

なお、展示品の「正四位下検非違使兼河内の守楠公碑拓本掛軸」「四條畷市小字全図」「楠公父子真筆集の内、正行関連7筆」(湊川神社提供)「くすのきまさつらかるたの絵札・字札揭示額と解説」「同字札45枚の書」(真木副代表書)にも、多くの方が関心を示され、多くの質問を受けました。

四條畷楠正行の会では、更に、正行の顕彰に向けて学びをつづけ、情報を発信して参ります。今後とも、ご支援・ご協力よろしくお願ひします。

最後になりましたが、四條畷市立教育文化センターの職員の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様に篤くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

楠木正行の魅力を発信するシンポジウム 四條畷市

南北朝時代の武将 楠木 加した。正成の嫡子・正行の魅力を発信するシンポジウムが9日、正行ゆかりの四條畷市 催。正行は11歳で正成とで開かれ、約100人が参

父の遺志を継いで足利尊氏と戦ったが「四條畷の戦いで敗れ、23歳で自害した。戦前、正成・正行父子は教科書でも大きく取り上げられるなど国民的英雄だった。

シンポジウムでは、同会代表の扇谷昭氏と、四條畷の戦いを控えた正

行が決意の和歌を残した如意輪寺(奈良県吉野町)の加島裕和副住職が登壇。正成・正行父子を題材にしたNHK大河ドラマ実現に向けた活動や正行と一族の軌跡をたどるプロジェクトを紹介したほか、正行が生前に正四位下の位階を得ていたことも説明した。

加島副住職は、正行の魅力を発信に取り組み、(回答)「好きな武将」を若い人たちに質問すれば、(回答)「正行が入るようになっていきたい」と述べた。

学生らと正行をテーマにしたかるたなどを制作した大阪電気通信大の木子香准教授も参加し、「学生たちがいつか『ひとりの信念に生きる』とはどういうことか考え直すとき、正行は最適な人物」と強調した。

楠木正行の魅力を発信 四條畷でシンポ 100人参加

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)

お礼 市民の皆様、そして近畿各地からお越しいただきました皆様、ご協力ありがとうございました。駐車場が狭く、マイクの調子も悪く、ご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。▶ 写真はいずれも楠野撮影。新聞紙面は3月10日付産経新聞朝刊より。